

入選 千葉県 田澤 隆暁 様 (20代 男性)

最近友人との雑談の中で年金について話題になった。その友人が言うには、高い保険料が月々の給料から天引きされるのに高齢者になってから年金をもらえるかどうか分からないから年金保険料を払いたくない、と言うのだ。私は、正直もらえる給料はそれほど多いとはお世辞にもいえないし、彼の気持ちが痛いほど分かるが、同時にどこか違うのではとの思いが胸をよぎった。

確かに老後にもらえる年金という観点から言えば、私達20代の若年者世代が高齢者になったときには、年金制度は今現在と全く同じものではなく、老齢年金に関して言えば支給開始年齢は今よりも後ろ倒しになるであろう。ただ、私は2つの観点から年金制度を考えた。それは、生きていることのリスクへの対応と、高齢者への仕送りという二つである。

まず一つ目の生きていることのリスクへの対応であるが、年金は高齢者になってからもらえるだけでなく、働ける状況でなくなったときにもらえる障害年金というものがある。これは、私の身近にもいるのであるが、視力が落ちてしまい健常者のように働くことが難しくなってしまった人がいて、その人は障害年金をもらっている。残念ながら、収入が健康な時代よりも格段に落ちてしまっているが、その障害年金のおかげで生活を送ることが可能となっている。健常者でなくなったことで前と同じ生活を送ることができなくなったことは確かに辛いし、できなくなってしまったことが多くなってしまっただろう。しかし、その人はその辛い気持ちを持ちながらもいきいきと働いている。その人は犬を飼っており、愛犬と日々を楽しむことに日々のいきがいを持っているようである。

二つ目の高齢者への仕送りという点であるが、私には幸いにして祖父母が健在である。私の祖父母は遠方に住んでおり直接会う機会がなかなか持てないが、しばしば電話をする。私の祖父母は野菜や米などを作って生活をしているが、ガソリン代などがかってなかなか大変なようである。私も祖父母に対して何か金銭的に援助したいと思うが、実際の収入からするとなかなかそれも難しいところもある。

る。しかしそこから思いをはせてみたのであるが、現在の日本の年金制度は、賦課方式というやりかたで運用をしている。これは、私たち現役世代が高齢者や障害を持った人に対しての年金を賄うというやり方である。これは考えたら非常にすばらしい機能であるということに気がついた。私は今一定の収入を得ているが、それこそ、もしかしたら明日にでも病氣や事故になってしまうかもしれない。そうなった場合普段から年金保険料を納めているので社会保障は受けることが可能であるが、それは即座にもらえるわけではなく、収入が非常に減っていく可能性は十分にある。一時的なものであれば、またすぐにでも仕事に復帰することができれば問題はないが、その間にも祖父母が健在であれば援助が必要であることには変わりはない。もしこれが自分が積み立てていた分で自分の年金を賄う積立方式であれば、もし自分の身に何かがあれば、それに対する社会保障というものは自分のためだけに使われることになる。もちろん、年金保険料が納めて本人だけに使われることがしっかりと分かるという点では積立方式が優れているとは思ふ。しかし、私が思うに保険料をきちんと納めた人本人が報われるという点も重要であるが、国の社会保障はなるべく多くの人々が保障を受けられるという点が国に対して求められることであると思う。賦課方式であれば、もし私の身になにかあっても祖父母への年金の受給額には変化はない。祖父母は変わりのない生活を送ることができる。そういう点では非常にこの年金制度は優れているものだと思った。

とこんなことをふと考えて、再び年金の話を友人とした。私が考えたことを友人と話したら、

「そこまで考えるとはなかなかだねえ」

と言ってもらえた。それでもおそらく彼は納得がいかない点があるのだとは思ふ。馬鹿正直なやつだと思われたかもしれない。しかしながら、もしも自分や身の回りに何かがあったら、と思うと年金保険料を払わない、ということは考えたくないものである。まずは、日々こうして健康に過ごしていることに感謝をしつつ、こういうことを考えるいい機会を持てたな、と思った。